

東葉高速鉄道(株)平成25年度(第33期)決算について

- ◆開業以来最高となる輸送人員を記録
- ◆昨年度に引き続き営業利益50億円台を確保
- ◆4期連続で経常利益及び当期純利益を計上

東葉高速鉄道株式会社(本社:千葉県八千代市 社長:高梨 國雄)の平成25年度(第33期)決算がまとまりましたのでご報告いたします。

【輸送人員】

年間輸送人員は、開業以来最高となる5,041万7千人(前年度比3.1%増)となり、1日平均13万9千人(昨年度:13万5千人)のお客様にご利用いただきました。

【決算概要】

収入の根幹である運輸収入は、過去最高となる148億7百万円(前年度比2.2%増)となりました。一方、関連事業による運輸雑収は、6億7千9百万円(前年度比0.6%減)となりました。

営業利益は、第五次経営改善計画を中心とした経営改善に努めた結果、過去最高となる55億9百万円(前年度比9.1%増)となり、昨年度に引き続き50億円台を達成することができました。

さらに、鉄道建設時の長期債務に係る支払利息が、利率の低下と元金償還の進展により、37億2千1百万円(前年度比1億8千3百万円減)にとどまったことから、経常利益16億6千4百万円、当期純利益15億3千1百万円となり、平成22年度から4期連続で経常利益及び当期純利益を計上することができました。

(単位:百万円)

		平成25年度 (第33期)	平成24年度 (第32期)	増減
営業収益	運輸収入	14,807	14,488	319
	運輸雑収	679	683	△4
		15,486	15,172	314
営業費		9,977	10,121	△144
営業利益		5,509	5,050	459
営業外収益		338	338	0
営業外費用		4,183	4,306	△123
経常利益		1,664	1,081	583
特別利益		13	0	13
当期純利益		1,531	980	551

【参考】

長期債務残高	285,396	291,600	△6,204
--------	---------	---------	--------

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

以上

事業報告

〔平成25年4月1日から
平成26年3月31日まで〕

1. 株式会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及び成果

当社は、平成8年4月の開業以来、地域に密着し地域と共に歩む鉄道として、お客様に信頼され、活力と魅力ある鉄道となるために、安全・正確・快適な輸送サービスを基本として健全経営の確立に努めてまいりました。

安全性の向上については、引き続き高架橋橋脚の耐震補強工事を推進したのをはじめ、駅の車掌用監視モニタを更新して視認性向上を図るなど、施設の安全性向上を積極的に進めるとともに、安全推進会議の開催、安全防災対策の重点目標の設定、安全監査（内部監査）を実施することにより、安全管理体制の維持・改善に努めました。

また、鉄道運行业務における基本動作の励行を徹底するとともに、各職場単位での社員教育・訓練の実施や、職場横断的な異常時総合訓練の実施などにより、全社員の安全意識や技能の向上に努めました。

この結果、平成25年度も開業以来の運転無事故記録を継続することができました。

次に輸送サービスの向上については、視覚障害を持つお客様にも安心してご利用いただけるよう、東海神駅、船橋日大前駅、村上駅、東葉勝田台駅の構内に触知図案内板を設置し、既設分と合わせて全駅への設置を完了いたしました。

また、新たに駅ナンバリングを導入し、沿線外の方や外国の方などなたにもわかりやすいご案内に努めたほか、各駅ホーム上の行先表示器をより見やすい新型のものに更新いたしました。

一方、営業面においては、当社線沿線にローズガーデンを有する京成バラ園芸株式会社と連携し、往復乗車券とローズガーデンの入園券をセットにした「東葉ローズチケット」を新たに発売したほか、当社を含む鉄道8社の合同で「東葉東京メトロパス」の販売促進キャンペーンを実施するなど、定期外旅客の確保・拡大を図りました。

また、3月に運行ダイヤの改正を行い、平日夕方に4本運行していた東葉快速列車について、当社線内を各駅停車に変更し、各通過駅をご利用のお客様の利便性向上を図りました。

さらに、通学定期については、沿線の学校関係団体からかねてより割引率拡大の要望が寄せられておりましたが、平成24年度の船橋・八千代両市議会における全会一致の陳情採択なども踏まえ、平成26年4月から割引率を拡大することを決定し、国に届出を行いました。

関連事業については、店舗貸付や広告料収入の確保に努め、飯山満駅改札外で新規広告の掲出などを行いました。また、駅構内店舗が撤退することとなったため、跡地への新たな店舗の誘致に向けた協議を進めました。

このほか、地域との共生の取り組みとして、沿線の中高校生による演奏イベントである「東葉サマーコンサート」や、船橋レクリエーション協会の協力による「東葉健康ウォーク」、さらには地元自治会や同業他社などの協力による「東葉家族車両基地まつり」を開催し、地域の方々に当社に一層の親しみを感じていただけるよう努めました。

こうした取り組みの結果、平成 25 年度の輸送人員は、開業以来最高であった昨年度をさらに上回る 5,041 万 7 千人（前年度比 3.1%増）となり、1 日平均では 13 万 9 千人となりました。また、運輸収入は 148 億 7 百万円（前年度比 2.2%増）となりました。

関連事業による運輸雑収については、駅構内の交通系電子マネー対応自動販売機の増設などにより構内営業料が増加したものの、車内広告の出稿減や店舗貸付料の減などから、6 億 7 千 9 百万円（前年度比 0.6%減）となりました。

一方、営業費用面では、第五次経営改善計画を中心とした経営改善に努めた結果、営業利益は 55 億 9 百万円（前年度比 9.1%増）となり、昨年度に続いて 50 億円台を達成することができました。

さらに、鉄道建設時の長期債務に係る支払利息が、利率の低下と元金償還の進展により、37 億 2 千 1 百万円（前年度比 1 億 8 千 3 百万円減）にとどまったことから、経常利益 16 億 6 千 4 百万円、当期純利益 15 億 3 千 1 百万円を計上することができました。

(2) 資金調達の状況

平成 25 年 9 月 5 日、千葉県、船橋市、八千代市及び東京地下鉄株式会社から総額 32 億 9 千万円の第三者割当による出資を受け、658 万株の増資を完了いたしました。

(3) 対処すべき課題

鉄道事業者として最大の課題は安全の確保であり、平成 18 年度に制定した安全管理規程に基づき、今後も輸送の安全を確保するため、安全対策を確実に実施してまいります。

一方、平成 25 年度も当期純利益を計上することはできたものの、依然として多額の有利子負債により債務超過の状態であることに変わりはなく、経営上の大きな課題となっております。

このため、第 2 次経営支援策において、平成 19 年度から平成 28 年度までの 10 年間を「集中支援期間」と位置づけ、支援関係者と当社で構成する「東葉高速自立支援委員会」が設置され、当社の自立を目標として、支援関係者と一体となった取り組みを行っております。

当社では、平成 25 年度からの 4 か年計画として策定した第五次経営改善計画に基づき、「安全・自立・共生」の方針の下、引き続き増収対策や繰上償還などによる財務体質の改善を図っております。

また、今後も、第 2 次経営支援策に基づき、千葉県、船橋市、八千代市及び東京地下鉄株式会社に追加出資などの資金支援をしていただくとともに、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構には、建設資金の償還期間の大幅な延長を引き続き実施していただくこととなっております。

このように多大な経営支援を賜っている関係各位に対しまして、深甚なる謝意を表すものであります。

株主の皆様におかれましても、これまでと同様に、当社の置かれております現状について、ご理解、ご高配を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

貸借対照表

(平成26年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資 産 の 部		負 債 の 部	
流動資産	14,507,907	流動負債	11,307,654
現金及び預金	2,889,700	1年内返済の長期借入金	880,000
未収運賃	1,100,216	未払金	7,455,621
未収金	351,029	未払費用	242,830
有価証券	9,999,415	未払消費税等	77,239
貯蔵品	135,882	未払法人税等	174,812
前払費用	31,662	預り連絡運賃	800,360
		預り金	17,435
		前受運賃	1,492,196
		前受金	20,592
		賞与引当金	145,661
		その他の流動負債	904
固定資産	249,508,337	固定負債	281,803,987
鉄道事業固定資産	238,387,041	長期借入金	1,760,000
建設仮勘定	27,594	長期未払金	279,025,145
投資その他の資産	11,093,701	退職給付引当金	825,712
投資有価証券	11,014,438	役員退職慰労引当金	19,317
長期前払費用	76,547	その他の固定負債	173,813
その他の投資等	2,715	負債合計	293,111,642
		純資産の部	
		株主資本	△ 29,095,396
		資本金	52,730,000
		利益剰余金	△ 81,825,396
		その他利益剰余金	△ 81,825,396
		繰越利益剰余金	△ 81,825,396
		純資産合計	△ 29,095,396
資産合計	264,016,245	負債純資産合計	264,016,245

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
鉄 道 事 業		
鉄道事業営業収益		
旅客運輸収入	14,807,099	
運輸雑収	679,574	15,486,673
鉄道事業営業費		
運送費	4,301,816	
一般管理費	206,257	
諸税	621,924	
減価償却費	4,847,350	9,977,348
営業利益		5,509,324
営業外収益		
受取利息	24	
有価証券利息	26,179	
その他の収益	311,929	338,133
営業外費用		
支払利息	3,721,938	
その他の費用	461,071	4,183,010
経常利益		1,664,447
特別利益		
工事負担金等受入額		13,883
税引前当期純利益		1,678,330
法人税、住民税及び事業税		146,489
当期純利益		1,531,840

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。